

高学年 3 組 社会科学学習指導案

授業日 平成29年 7 月 7 日 (金) 4 校時

授業者 附属新潟小学校 指導教諭 大矢 和憲

会場 高学年 3 組教室

1 単元名 「フード・アクション・ニッポン」

2 本単元の価値

本単元は、農林水産省が推進する「フード・アクション・ニッポン」を教材化した単元である。

本単元では、子どもが、日本の食料の生産と消費に関する課題（以下：食料問題）を把握して、食料問題の解決に向けた方策を見だし、社会へのかかわり方を考えることを目指す。そのために、子どもが一消費者として食料問題の解決に向けて何ができるかを考えたり、自分を含めた国民が、どのように社会にかかわることが必要なのかを議論したりすることができるように学習を展開していく。

近年、日本のカロリーベースの食料自給率（以下：自給率）は39%（世界124位）と自給率の低さが問題になっている。しかし、生産額自給率は68%と、日本の食料生産力は、決して低いわけではない。自給率が低いから生産力を上げればいいと食料生産の問題と考えがちだが、そもそもカロリーベースの自給率は国際標準ではなく、自給率自体も消費の変化により数値が変化するものである。

自給率低下の根本的な要因は、食生活の洋食化により国内自給率の低い食料の輸入が増え、国内自給率の高い食料の消費が減ったこと。外食産業等が発達し、日本人の食生活が豊かになったこと。さらには、日本の食料廃棄量が年間1900万トンもあることなど、日本人の食料消費に問題があるのである。世界規模で考えれば、日本人の贅沢な食生活を変えていくことが必要なのである。

そこで本単元では、様々な日本の食料問題を学習した子どもに「日本人の好きな料理トップ5」を提示することで、子どもが自分を含めた国民の食生活の実態に問題意識をもち、どのような料理を食べたらよいかを追究し、食生活から食料問題を解決するための社会へのかかわり方を考えていく学習場面を設定する。

子どもは、学習過程において、事象や人々の相互関係に着目し、国民の生活と関連付けて考える「見方・考え方」を働かせ、社会科で育成する資質・能力を発揮して追究していくことができる。また、食生活の問題点について解決方法を構想したり実践したりする学習活動を取り入れることで、家庭科や食育で育成する資質・能力を発揮して課題解決していく姿が期待できる。

さらに、調べたり考えたりする過程で、タブレット端末の「ロイロノートアプリ※画像等の情報の取込やテキストスライドの作成ができ、それらをつなげて考え、蓄積したり共有したりすることができるアプリ」を活用させたり、それぞれに調べたことを交流させたりすることで、ツール活用能力や協働性を発揮して、思考・判断・表現していくことができる。

このように、子どもが、社会科を中心に、家庭科や食育で育成する資質・能力、協働性、ツール活用能力を教科等横断的に発揮して、食料問題の解決に向けた具体的な方策を見だし、社会へのかかわり方を考えていくことができる単元である。

3 本単元で目指す姿

食料問題の解決に向けた方策を見だし、社会へのかかわり方を考える子ども

「日本の食の未来のためにも自給率を上げることが大切で、国民みんなができることを実行して、協力する必要があることが分かりました。いつも栄養バランスや自給率を考えて料理をつくるのは難しいけれど、私は、これからもできるだけ国産の食材を使って料理をしたり、洋食を減らして和食を食べるようにしたりしていきたいです」などと考える姿。

4 本単元で育成する資質・能力

単元カード参照

5 指導計画 全 8 時間 (240) ※社会科 6 時間・家庭科 1 時間・食育 1 時間

単元カード参照

6 指導の構想

子どもはこれまでに、日本の自給率（カロリーベース）が低いことから日本の食料問題について学習し、日本の現状に危機感を感じている。また、食料問題に対して、社会でどのような取組が行われているのか関心をもち、生産者や企業等が行っている地産地消の推進について学習している。

しかし、食料問題の解決に向けて自分に何ができるのかや、自分を含めた国民がどのように社会にかかわることが必要なのかまでは考えていない。

また、本単元に関連付けて、家庭科と食育の学習で、五大栄養素と「日本型食事」について学習している（C0）。このような子どもに、次のように働き掛ける。

働き掛け1

既習の食料問題をまとめた資料(資料1)と、「日本人の好きな料理ベスト5」(資料2)を提示し、問題と感ずる理由と、これから考えたいことを問う。

食料問題と自分を含めた国民の生活を関連付けた問いをもたせ、学習問題を設定させるための働き掛けである。

まず、資料1と資料2(※博報堂生活総合研究所による定点調査より引用)を順番に提示する。このとき、各料理の自給率(農林水産省食料自給率計算ソフト「クッキング自給率」で算出したデータ)を合わせて提示する。

子どもは、日本人の好きな料理に共感しつつも、既習の食料問題と「日本人の好きな料理ベスト5」を比較してずれを感じ、「これではだめだ」などと、日本人の好きな料理に問題意識をもつ。このような子どもに、なぜ問題と感ずるのか理由を問う。

子どもは、**事象や人々の相互関係に着目し、国民の生活と関連付けて考える「見方・考え方」や健康に着目する「見方・考え方」**を働かせて、「こういうのもばかり食べていると、自給率がどんどん下がっていくからダメだ」「栄養バランスが悪くて体によくない」などと、国民の食生活についての問題点を挙げる(社会科・家庭科・食育①知識・技能)。

このとき、子どもが挙げる問題点(自給率の低下、輸入量の増加、栄養バランス等)を板書で明確化して共有させる。この問題点が、子どもが改善策を調べたり考えたりする際の視点となる。

このような子どもに、これからみんな考えてほしいことを問う。子どもは、「自給率を上げるために、どのような料理を食べたらよいのだろうか」と学習問題を設定する(社会科・家庭科・食育③態度)。

このような子どもに、次のように働き掛ける。

働き掛け2

子どもの予想を発表させ、「調べる・考える視点」と学習の進め方を問う。

学習問題について調べたり考えたりしていくための視点を明確にし、様々な資質・能力を発揮して学習する見通しをもたせるための働き掛けである。

学習問題を設定した子どもは、共有した問題点を基に料理の改善策を考え始める。ここで、子どもの予想を発表させる。子どもは既習の知識を基に、「自給率の高い食材で作るとよい」「和食にすればよい」などと改善策を考えるが、具体的な情報が足りないため、調べる必要があると考える。

そこで、「調べる・考える視点」と学習の進め方を問う。子どもは、**事象や人々の相互関係に着目し、国民の生活と関連付けて考える「見方・考え方」や健康に着目する「見方・考え方」**を働かせ、収集する情報や考え方、調べたり考えたりする方法を決める。そして、教科書や資料集、ipadを使って具体的な情報を調べ始める(社会科・家庭科・食育①知識・技能②思考力・判断力・表現力③態度)。

この場面で子どもは、生活班で調べ方や有力な情報を教え合いながら情報収集をする(④協働性)。調べた情報や自分の考えは、ロイロノート(右写真)に記録させ、見いだした改善策をスライドにまとめることを指示する。子どもは、調べた情報をロイロノートアプリに蓄積したり、関連付けたりして具体的に料理の献立を考えていく(⑤ツール活用能力)。

このような子どもに、次のように働き掛ける。

働き掛け3

考えたことが本当にできるのか問い、実践調査レポートを作成させる。

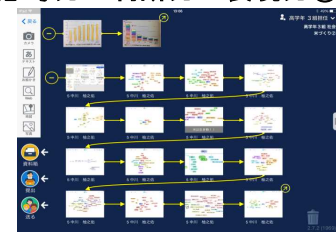
実生活でできることと難しいことがあることに気付かせ、より現実的に社会へのかかわり方を考えることができるようにするための働き掛けである。

料理の献立を考えた子どもに、考えたことが本当にできるのか問う。子どもは、考えた改善策の不確かさを感じ、「やってみないと分からない」などと、考えた改善策が実際にできるのかどうか確かめたいくなる。このような子どもに、実際にできるかどうかを確かめる実践調査をさせ、実践調査レポートを作成させる。実践調査レポートはロイロノートで作成し、実践結果と、できる(できた)こと、難しい(難しかった)ことの三点をスライドにまとめるように指示する。

子どもは、自分の家庭や地域で調査を行い、**事象や人々の相互関係に着目し、国民の生活と関連付けて考える「見方・考え方」や健康に着目する「見方・考え方」**を働かせて、実際にできることと、難しいことがあることに気付いたり考えたりする(社会科・家庭科・食育①知識・技能②思考力・判断力・表現力③態度⑤ツール活用能力)。

(資料1)日本の食料問題

- ▲ 食料自給率39%(輸入61%)
 - ▲ 食生活の洋食化・多様化
 - ▲ 輸入にたよりにすぎている
 - ▲ フードマイルージ世界最悪
 - ▲ 食料はいき、食品ロスが多い
 - ▲ 生産者減少・高齢化・後継者不足
 - ▲ 農地の減少・こう作放棄地の増加
- このままでは日本が・・・



働き掛け4
農林水産省の方に国の目標を提示してもらい、目標を達成するためには、誰が、どうすればよいのか問う。

食料問題の解決に向けた国民の社会へのかかわり方について議論させるための働き掛けである。子どもは、それぞれに家庭や地域で実践調査を行ってきているため、友達のレポートが気になっている。このような子どもに、まず、レポートの交流を行わせ、その後、実際にできることと難しいことを順番に発表させ、分類して板書する。子どもは、自分や友達の調査結果を基に、実際にできることと難しいことを具体的に挙げ、共有する。

このように学習問題について追究してきた子どもに、新たな情報として、農林水産省の方から国が決定した「10年後の自給率目標（平成37年度までに食料自給率を45%にする）」を提示してもらおう。そして、「目標を達成するためには、誰が、どうすればよいか」と問う。また、このとき、拡大したコア・マトリクスを使って子どもの考えを記述していく。コア・マトリクスを使うことで、子どもが多角的に考えたり、総合して考えたりすることを促せるからである。子どもは、これまでの学習を基に、**事象や人々の相互関係に着目し、国民の生活と関連付けて考える「見方・考え方」**を働かせて、自分たち（消費者）や生産者、販売店等の立場を挙げて、多角的に方策を考えていく。そのような子どもに、「つまり誰がどうすればよいか」再度問う。子どもは、**総合して考える「見方・考え方」**を働かせて、「みんなが自給率を上げるために協力すればよい」「それぞれの立場でできることを実行すればよい」などと、国民の社会へのかかわり方を考える（**社会科・家庭科・食育①知識・技能②思考力・判断力・表現力③態度④協働性**）。

働き掛け5
農林水産省の方に子どもの考えに対する価値付けをしてもらい、学習を通して分かったこと・考えたこと・思ったことを問う。

これまでの学習を基に、社会へのかかわり方について考えをまとめさせるため、また、発揮した資質・能力の自覚を促すための働き掛けである。

まず、子どもが考えたことに対して、農林水産省の方から価値付けをしてもらおう。子どもが考えたことの大切さや、農林水産省として、「フード・アクション・ニッポン」を推進するにあたり、子どもに伝えたいことを話してもらおう。話を聞いて、子どもは「フード・アクション・ニッポン」の取組の意味や重要性について理解する。

その後学習のまとめとして、学習を通して分かったこと・考えたこと・思ったことを問う。子どもは、**事象や人々の相互関係に着目し、国民の生活と関連付けて考える「見方・考え方」**を働かせて、「日本の食の未来のためにも自給率を上げることが大切で、国民みんなができることを実行して協力する必要があることが分かりました。いつも栄養バランスや自給率を考えて料理をつくるのは難しいけれど、私は、これからもできるだけ国産の食材を使って料理をしたり、洋食を減らして和食を食べるようにしたりしていきたいです」などと考える（**社会科・家庭科・食育①知識・技能②思考力・判断力・表現力③態度**）。こうして、**食料問題の解決に向けた方策を見だし、社会へのかかわり方を考える子ども（Cn）**になる。

7 本時の構想（本時 8／8時間）

(1) ねらい

これまでの学習を基に、自給率目標を達成するための方策について議論し、国民としての社会へのかかわり方を考えることができる。

(2) 主張（展開）3Q（45分）

このような子どもに（C0）

- 日本の自給率（カロリーベース）が低いことから、日本が食料を外国からたくさん輸入していることや食料廃棄量が世界一であることなどを学習し、日本の現状に危機感を感じている。
- 食料問題に対して、社会でどのような取組が行われているのか関心をもち、生産者や企業等が行っている地産地消の推進について学習している。
- 食料問題の解決に向けて、自分に何ができるのかや、自分を含めた国民がどのように社会にかかわることが必要なのかまでは考えていない。
- 本単元に関連付けて、家庭科と食育の学習で五大栄養素と「日本型食事」について学習している。
- ロイロノートを活用して、調べたことや考えたことをまとめることができる。

このように働き掛けると【働き掛け1】

- 既習の食料問題をまとめた資料（資料1）と「日本人の好きな料理ベスト5（資料2）」を提示し、問題と感ずる理由と、これから考えたいことを問う。
※資料1を提示する。

- ・説明「これまで、日本にはこのような食料問題があることを学習してきましたね」
- ・説明「そんなみんなに、ぜひ見てもらいたいデータをもってきました」
※資料2をプレゼンテーションで5位から順番に提示する。各料理の自給率も提示する。
- ・発問「みんなは、なぜこれがダメだと感じるのですか。ワークシートに書きましょう」
- ・指示「発表しましょう」
※子どもが挙げた問題点を板書する。
- ・発問「これからみんなで考えたいことはどんなことですか。学習問題はこれでいいですか」

このようになり (C1)

- 食料問題と自分を含めた国民の生活を関連付けた問いをもち、学習問題を設定する。
 - ・日本では食料問題がたくさんあったな。このままではいけないな。
 - ・好きな料理と言ったら、やっぱり寿司とかラーメンじゃないかな。
 - ・洋食が多いよ。自給率はこんなに低いのか？これはダメだよ。
 - ・こういうものばかり食べていると、どんどん輸入が増えて、自給率が下がるから問題だ。
 - ・輸入が増えるということは、日本の生産者にとってよくなって、このままではどんどん生産者が減ってしまつて自給率ももっと下がることになるから問題だ。
 - ・この料理は自給率も低いけれど、栄養バランスも悪そうだからダメだ。
- ◎自給率を上げるためには、どのような料理を食べたらよいのだろうか (学習問題)。
(社会科・家庭科・食育：①知識・技能③態度)
- * 学習問題に賛成した子ども(挙手で確認)を問いをもった姿とする。

このように働き掛けると【働き掛け2】

- 子どもの予想を発表させ、「調べる・考える視点」と学習の進め方を問う。
 - ・指示「どのような料理だとよさそうですか。予想を発表しましょう」
 - ・発問「では、これから調べたり考えたりしていく視点は何にしたらいいですか」
 - ・発問「これからどうやって調べたり考えたりしていきますか」
※「調べる・考える視点」と学習の進め方を板書する。
 - ・指示「それでは生活班で机を合わせて調べ始めましょう。調べて分かったことは、ロイロノートに記録して、学習問題についての自分の考えをまとめていきましょう。

このようになり (C2)

- 学習問題について調べたり考えたりしていくための視点を設定し、様々な資質・能力を発揮して学習する見通しをもつ。
 - ・自給率の高い料理を食べるようにすればいいと思う。
 - ・国産の食材、旬の食材や地産地消できる食材がいいと思う。
 - ・栄養バランスのよい和食(日本型食事)を食べるようにすればいいと思う。
- 【調べる・考える視点】
 - ・自給率の高い料理。 ・自給率の高い食材。 ・旬の食材や地産地消できる食材。
 - ・栄養バランスのよい料理。 ・和食。
 - ・自給率の高い食材を使った栄養バランスのよい和食がいいんじゃないか？
 - ・教科書や資料集やipadで情報を調べて、ロイロノートに情報をまとめていけばいい。〈方法〉
 - ・視点がたくさんあるから、班で分担して調べて、情報を共有して考えていけばいい。〈進め方〉
- ※生活班で机を合わせて学習を始める。
- * この場面では、様々な資質・能力を発揮して調べたり考えたりすることが予想される。よって、発揮されることが想定される資質・能力を示す。そして、どのような資質・能力が発揮されているかを子どもの姿から検証することとする。
 - ・教科書や資料集、ipadでインターネットを活用して、自給率の高い食材や料理、地産地消できる食材等を調べる (社会科①知識・技能②思考力・判断力・表現力③態度)。
 - ・和食を調べ、食材を組み合わせるとして和食の献立を考える (食育①知識・技能②思考力・判断力・表現力③態度)。
 - ・栄養バランスを考えて1食分の献立を考える (家庭科・食育①知識・技能②思考力・判断力・表現力③態度)。
 - ・生活班で調べ方や有力な情報を教え合いながら必要な情報を収集したり、調べた情報をipadで共有したりして、学習問題について考える (④協働性⑤ツール活用能力)。
 - ・調べて分かった情報をロイロノートで整理したり、関連付けたりして学習問題について考える (⑤ツール活用能力)。
 - ・(改善策例) 自給率の高さと栄養バランスを考えて、ごはん・サンマの焼き魚・にんじん、じゃがいも、たまねぎ、鶏肉を使った煮物・旬の野菜を使ったおひたしを食べればいいと考えました。

このように働きかけると【働き掛け3】

- 考えたことが本当にできるのか問い、実践調査レポートを作成させる。
 - ・説明「食料自給率を上げるために、どのような料理を食べたらよいのかを考えましたね」
 - ・発問「みんないろいろな情報を調べて献立を考えただけで、考えたことは本当にできるのですか」
 - ・指示「それでは、自分が考えたことが、自分の家で実際にできるかどうか調べたり確かめたりしてきましょう」
 - ・説明「家やお店で調べたり確かめたりして、その結果と、できる（できた）こと、難しい（難しかった）ことを、ロイロノートのスライドにまとめてきましょう。宿題です」
 - ・説明「スライドができたなら、ロイロノートの提出箱に提出しましょう」

このようになり (G3)

- できることと難しいことがあることに気付き、より現実的に社会へのかかわり方を考える。
 - ・きっとできる。 ・やってみないと分からない。
 - ・実際にやれるかどうか調べてみたい。自分で作ってみてもいいんじゃない？
 - ・家に帰ってお母さんにできるかどうか聞いてみよう。
 - ・近くのスーパーに行って、食材が売っているかどうか調べてみよう。
- ※ここからは、家庭や地域での調査活動になる。ロイロノートに調査結果をまとめる。
- * ロイロノートの調査結果から、資質・能力を発揮しているか検証する。
 - ・(解答例) 近くのスーパーに行って考えた食材が売っているかどうか調べたら、売っているものと売っていないものがありました。だから、実際に作ることも作ることができないものがあることが分かりました。できるだけ国産の食材で作ることが大事だけれど、食材がない場合は仕方が無いと考えました。実際にやることは難しいと思いました。
 - ・(解答例) お母さんに聞いてみたら、国産のものだけで作ることは難しいし、お金がかかるからいつもできるわけでもないと言われました。でも、ぼくの家では、できるだけ国産の食材を使って料理を作っていることが分かりました。だから、できるときにやれば良いと考えました。できるだけ自給率の高い食材を使って、栄養バランスのよい和食を食べようと思いました。
(社会科・家庭科・食育①知識・技能②思考力・判断力・表現力③態度⑤ツール活用能力)

ここから本時

このように働きかけると【働き掛け4】

- 農林水産省の方に国の目標を提示してもらい、目標を達成するためには、誰が、どうすればよいか問う。
 - ・説明「みんなとっても頑張って実践調査をしてくれましたね。さてさて、他の人の結果はどうだったでしょうか。お互いの結果を交流しましょう」
 - ※生活班でロイロノートのスライドを見せ合わせ、調査結果を交流させる。
 - ・説明「どうやらできる（できた）ことと難しい（難しかった）ことが分かったようですね」
 - ・指示「まずは、できる（できた）ことを発表しましょう」
 - ・指示「次は、難しい（難しかった）ことを発表しましょう」
 - ※子どもの発言を分類して板書する。
 - ・説明「なるほど、実際にやったり調べたりしてみて、こういうことが分かったのですね」
 - ・説明「今日も農林水産省の小崎さんが、金沢から来てくれました。実は今日、小崎さんがどうしてもみんなに伝えたいこと、考えてほしいことがあるそうです。それでは、小崎さんお願いします」
 - ※農林水産省北陸農政局小崎さんから、国の目標を提示し、子どもに発問してもらおう。
 - ※プレゼンテーションで国の目標を提示する。
 - ・説明「今日は、みなさんにどうしても伝えたいことがあってやってきました。今の日本の食料自給率は何%でしたか。そうですね、39%です。グラフを見て分かるように、自給率はどんどん下がってきて、ここ5年くらいは39%が続いています。実は、昨年平成27年3月に、国で10年後の自給率目標が決まりました。10年後の平成37年には食料自給率を45%にするという目標です」
 - ※少し間を取る。
 - ・発問「みなさん、この目標を達成するためには、誰が、どうすればよいですか。ぜひ考えてみてください」
 - ※黒板に拡大したコア・マトリクスを提示し、子どもの考えを記述していく。
 - ・指示「さあ、誰が、どうすればよいか、考えを発表しましょう」
 - ※補助発問「それは誰がすることですか」「これで目標が達成できますか」「他に、誰がどうすればよいですか」
 - ・発問「いろいろな立場と考えが出てきたけれど、つまり誰がどうすればよいのですか」

このようになり (C4)

- 食料問題の解決に向けた国民の社会へのかかわり方について議論する。
- | | |
|---|--|
| <p>【できること】</p> <ul style="list-style-type: none">・新潟県産や国産の食材を揃えて作ることができた。・直売所に行けば、旬の食材や国産の食材を買うことができる。 | <p>【難しかったこと】</p> <ul style="list-style-type: none">・国産の食材を買いそろえるのが難しい。・国産の食材は外国産と比べて高いから、いつも国産を買うことは難しい。・いつも和食や栄養バランスを考えて、国産の食材で作るのはたいへんだ。 |
|---|--|
- ・45%ならできるんじゃないか。 ・でも、10年で達成できるかな。
- ・(食料自給率目標を達成するためには) 私たち消費者が、できるだけ直売所やスーパーで国産の食材や旬の食材、地元で採れた食材を買うようにすればいいと思う。
- ・私たち消費者が、できるだけ洋食や外食を減らして、和食を食べるようにすればいいと思う。
- ・生産者が、もっとたくさん食料を作れるようにすればいいと思う。
- ・消費者が国産の食材を買うことができるように、JAなどが直売所を増やしたり、スーパーなどもっと地元の食材を売ったりすればいいと思う。
- ・国などが、「もっと国産の食料を食べよう」となどと、みんなに宣伝すればいいと思う。
- ・自給率を上げるために、みんながそれぞれの立場でできることを実行して協力すればいい。
- (社会科・家庭科・食育①知識・技能②思考力・判断力・表現力③態度④協働性)

このように働き掛けると【働き掛け5】

- 農林水産省の方に子どもの考えに対する価値付けをしてもらい、学習を通して分かったこと・考えたこと・思ったことを問う。
- ・説明「小崎さん、子どもたちの考えたことはいかがでしょうか。コメントをお願いします」
※農林水産省北陸農政局小崎さんから、子どもの考えのよい点や大切な点、農林水産省として、「フード・アクション・ニッポン」を推進するにあたり子どもたちに伝えたいこと（日本の食料問題を解決するため、日本の食の未来を守るために、今こそ、国民みんなが自分にできることを実行し、協力していくことが大切であるということ）を話してもらおう。
 - ・説明「自給率を上げるためにはどうすればいいのかわかるか、調べたり考えたりしてきましたね」
 - ・発問「これまでの学習を通して、分かったこと・考えたこと・思ったことは、どのようなことですか」
 - ・指示「学習のまとめとして、分かったこと・考えたこと・思ったことを、ワークシートに書きましょう」

このようになる (Cn)

- これまでの学習で分かったことを基に、社会へのかかわり方について考えをまとめる。
- ・日本の食の未来のためにも自給率を上げることが大切で、国民みんなができることを実行して協力する必要があることが分かりました。いつも栄養バランスや自給率を考えて料理をつくるのは難しいけれど、私は、これからもできるだけ国産の食材を使って料理をしたり、洋食を減らして和食を食べるようにしたりしていきたいです (社会科・家庭科・食育①知識・技能②思考力・判断力・表現力③態度)。

8 検証

(1) 検証すること

- ① 構想した働き掛けにより、想定したCnになったか。
- ② 構想した働き掛けにより、想定した「見方・考え方」を働かせることができたか。
- ③ 構想した働き掛けにより、想定した資質・能力を発揮することができたか。

(2) 検証の方法

- ① 働き掛け5を受けて、_____のように、社会の課題を解決するために、自分を含めた国民が、社会にどのようにかかわることが必要なのか考えているかどうかを、ワークシートの「学習のまとめ」の記述から検証する。
 - ② 働き掛け1から、_____のように事象や人々の相互関係に着目し、国民の生活と関連付けて考える「見方・考え方」を働かせているかどうかを、発言や活動の様子、考えを表現しているロイロノートやワークシートから検証する。
- ※ 本時では、働き掛け4・5を受けて、_____のような姿が表れているかを検証する。
- ③ 働き掛け1から、_____のように、想定した資質・能力を発揮しているかどうかを、発言や学習活動の様子、考えを表現しているロイロノートやワークシートから検証する。
- ※ 本時では、働き掛け4・5を受けて、_____のような姿が表れているかを検証する。